

平成30年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

○ 平成30年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜実施校は、全日制課程の32校34科、定時制課程の1校1科、特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜実施校は、全日制課程の14校17科であった。

推薦選抜、特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜合わせて6,765人が出願し、3,386人が入学許可予定者となった。

○ 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.09倍であった。また、出願変更率は6.4%であった。

※ 以下 () は前年度

<推薦選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)>

1 出願状況

募集枠 2,309人
出願者数 2,585人 出願倍率 1.12倍(1.05倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数 2,584人
入学許可予定者数 2,158人 合格率 83.5%(87.7%)

<特色選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)>

1 出願状況

募集枠 1,228人
出願者数 4,180人 出願倍率 3.40倍(3.39倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数 4,177人
入学許可予定者数 1,228人 合格率 29.4%(29.5%)

<スポーツ・文化芸術推薦選抜>

1 出願状況

募集定員 149人
出願者数 142人 出願倍率 0.95倍(1.05倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数 142人
入学許可予定者数 114人 合格率 80.3%(78.6%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況

出願者数 7,732人(7,992人)
確定出願者数 7,664人(7,933人)
確定出願倍率 全日制 1.11倍(1.12倍) 定時制 0.63倍(0.73倍)
全・定合わせて1.09倍(1.11倍)

2 出願変更状況

出願変更者数 495人 このうち 68人は出願辞退者
出願変更率 6.4%(7.0%)

(1) 学科別出願変更率では家庭学科が12.3%と最も高かった。(前年度は工業学科の10.6%)

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 271人 出願変更率 5.7%(6.0%)

3 受検状況

受検者数 7,642人 受検倍率 1.09倍(1.11倍)

全日制 7,479人 1.11倍(1.12倍) 定時制 163人 0.60倍(0.69倍)

4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数 6,675人 合格率87.3%(86.9%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科 17校21科(18校20科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員

全日制 12校15科230人 定時制 5校6科109人 全・定合わせて 17校21科339人

2 出願状況 出願者数 128人 出願倍率 0.38倍 (0.57倍)

3 受検状況 受検者数 128人 受検倍率 0.38倍 (0.55倍)

4 入学許可予定者 入学許可予定者数 106人 合格率 82.8% (80.9%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数 10,167人

2 実入学者数 10,164人

3 定員充足率 97.7% (98.5%)

平成30年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

平成30年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	2
	(3) 一般選抜の結果	2
	(4) 入学者選抜の結果	3
2	学科別の受験者数、入学許可予定者数等について	4
3	一般選抜における出願変更者数について	5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	8
2	配点等	8
3	検査成績	8
	【各教科の分析】	
	国 語	9
	数 学	11
	社 会	13
	理 科	15
	英 語	17

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成30年度県立高等学校入学選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日時の課程の32校34科（普通科16、専門学科11、総合学科7）、定時制課程の1校1科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、14校17科（普通科14、専門学科3）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月7日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・中等教育学校107校中99校（昨年度107校中96校）、特別支援学校中学部13校中0校（昨年度13校中0校）、県外の中学校は19校（昨年度17校）であった。全日時の出願者数は、普通科で874人（昨年度913人）、農業学科で258人（昨年度240人）、工業学科で373人（昨年度339人）、商業学科で371人（昨年度332人）、家庭学科で78人（昨年度58人）、体育学科で52人（昨年度52人）、美術学科で41人（昨年度44人）、総合学科で526人（昨年度498人）であった。定時制は普通科の12人（昨年度9人）となった。この結果、出願者数合計は、2,585人（昨年度2,485人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日時の普通科では1.02倍（昨年度1.05倍）、専門学科で1.25倍（昨年度1.12倍）、総合学科では1.04倍（昨年度0.93倍）、定時制の普通科は1.20倍（昨年度0.90倍）となり、実施学科全体では1.12倍（昨年度1.05倍）であった。この結果、2,158人が入学許可予定者となり、合格率は83.5%（昨年度87.7%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・中等教育学校107校中101校（昨年度107校中105校）、県外の中学校は23校（昨年度20校）であった。出願者数は、普通科で4,065人（昨年度4,051人）、理数学科で81人（昨年度81人）、音楽学科で34人（昨年度29人）であった。この結果、出願者数合計は4,180人（昨年度4,161人）となり、出願倍率は、普通科では3.48倍（昨年度3.47倍）、専門学科では1.92倍（昨年度1.83倍）となり、実施学科全体では3.40倍（昨年度3.39倍）であった。この結果、1,228人が入学許可予定者となり、合格率は29.4%（昨年度29.5%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,386人が入学許可予定者となり、合格率は50.1%（昨年度51.3%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推薦 選 抜	普通科	2,960	25~30	868	886	886	1.02	802	90.5	
	専門 学科	農業	400	50	200	258	257	1.29	198	77.0
		工業	760	50	380	373	373	0.98	327	87.7
		商業	520	50	260	371	371	1.43	255	68.7
		家庭	80	40	32	78	78	2.44	32	41.0
		体育	40	85	34	52	52	1.53	34	65.4
		美術	40	75	30	41	41	1.37	30	73.2
	小計	1,840		936	1,173	1,172	1.25	876	74.7	
総合学科	1,280	30~40※	505	526	526	1.04	480	91.3		
合計	6,080		2,309	2,585	2,584	1.12	2,158	83.5		
特色 選 抜	普通科	3,960	25~30	1,168	4,065	4,063	3.48	1,168	28.8	
	専門 学科	理数	80	50	40	81	80	2.03	40	50.0
		音楽	40	50	20	34	34	1.70	20	58.8
	小計	120		60	115	114	1.92	60	52.6	
合計	4,080		1,228	4,180	4,177	3.40	1,228	29.4		
総合計	10,160		3,537	6,765	6,761	1.91	3,386	50.1		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

推薦選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の16校（普通科9校、専門学科5校、総合学科3校 のべ17校）であった。特色選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の3校（普通科3校）であった。

受検者数142人に対して、入学許可予定者数は114人となり、受検者数に対する合格率は、80.3%となった。

(3) 一般選抜の結果

3月7日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,014人に対し、確定出願者数は7,664人であり、確定出願倍率は1.09倍であった。この結果、6,675人が入学許可予定者となり、合格率は87.3%であった。

3月20日に実施した二次選抜は、二次選抜定員339人に対し、受検者数は128人であった。この結果、106人が入学許可予定者となり、合格率は82.8%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		平成30年度	平成29年度
学力検査	学力検査定員 A	7,014	7,153
	出願者数	7,732	7,992
	確定出願者数 (倍率)	7,664 (1.09)	7,933 (1.11)
	受検者数 B (倍率)	7,642 (1.09)	7,914 (1.11)
	不合格者数	967	1,036
	入学許可予定者数 C	6,675	6,878
	合格率 C/B (%)	87.3	86.9
二次選抜	二次選抜定員 A-C	339	275
	出願者数	128	158
	受検者数 D (倍率)	128 (0.38)	152 (0.55)
	不合格者数	22	29
	入学許可予定者数 E	106	123
	合格率 E/D (%)	82.8	80.9
入学許可予定者数合計 C+E		6,781	7,001

(4) 入学者選抜の結果

3月14日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,167人であり、その内、推薦選抜による者は2,053人、特色選抜による者は1,219人、スポーツ・文化芸術推薦選抜による者は114人、一般選抜による入学許可予定者数は6,675人であった。また、3月23日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は106人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,167人となった。そのうち、全日制では募集定員10,120人に対して入学許可予定者数9,982人となった。

4月9日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,164人で、募集定員の97.7%（昨年度98.5%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	平成30年度			平成29年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				14,470	14,688
募集定員 A		10,120	280	10,400	10,560
推薦選抜入学許可予定者数		2,043	10	2,053	2,112
特色選抜入学許可予定者数		1,219	-	1,219	1,218
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		114	-	114	77
一般選抜入学許可予定者数		6,514	161	6,675	6,878
二次選抜入学許可予定者数		92	14	106	123
総計	入学許可予定者総数	9,982	185	10,167	10,408
	実入学者数 B			10,164	10,402
	定員充足率 B/A (%)			97.7	98.5

※県内中学校卒業予定者数は平成30年3月中学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、音楽学科、総合学科の4学科（昨年度5学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員 A		10,400	7,040	400	840	520	80	80	40	40	40	1,320	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,309	868	200	380	260	32	---	34	---	30	505	
	受検者数 B	2,584	886	257	373	371	78	---	52	---	41	526	
	入学許可予定者数 C	2,158	802	198	327	255	32	---	34	---	30	480	
	合格率 C/B(%)	83.5	90.5	77.0	87.7	68.7	41.0	---	65.4	---	73.2	91.3	
特色選抜	募集枠（人数）	1,228	1,168	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	受検者数 D	4,177	4,063	---	---	---	---	80	---	34	---	---	
	入学許可予定者数 E	1,228	1,168	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	合格率 E/D(%)	29.4	28.7	---	---	---	---	50.0	---	58.8	---	---	
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	7,014	5,070	202	513	265	48	40	6	20	10	840
		確定出願者数	7,664	*4,720	232	458	281	67	**	**	18	---	846
		受検者数 F	7,642	*4,706	229	458	281	67	**	**	18	---	841
		入学許可予定者数 G	6,675	4,852	202	457	265	48	40	6	18	10	777
		合格率 G/F(%)	87.3	***	88.2	99.8	94.3	71.6	***	***	100	---	92.4
	二次選抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	339	218	---	56	---	---	---	---	2	---	63
		出願者数	128	105	---	22	---	---	---	---	0	---	1
		受検者数 H	128	105	---	22	---	---	---	---	---	---	1
		入学許可予定者数 I	106	86	---	19	---	---	---	---	---	---	1
		合格率 I/H(%)	82.8	81.9	---	86.4	---	---	---	---	---	---	100
総計	入学許可予定者	10,167	6,908	400	803	520	80	80	40	38	40	1,258	
	実入学者数 J	10,164	6,906	400	802	520	80	80	40	38	40	1,258	
	過不足 J-A	-236	-134	0	-38	0	0	0	0	-2	0	-62	
	定員充足率(%)	97.7	98.1	100	95.5	100	100	100	100	95.0	100	95.3	
前年度定員充足率(%)		98.5	99.3	100	96.7	99.8	100	100	100	95.0	100	94.5	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	6	143	10
		確定出願者数	545		355		142	
		受検者数 D	545		355		142	
		入学許可予定者数 E	420	40	224	6	132	10

3 一般選抜における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数7,732人に対し、出願変更者数は495人（昨年度559人）、出願変更率は6.4%（昨年度7.0%）となり、確定出願者数は7,664人であった。

各学科別の出願変更率は、家庭学科の12.3%が最も高く（昨年度の最高は工業学科が10.6%）、次に、農業学科の11.7%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願者 数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,283	4,729	271	5.7	4,720	290	6.0
農業		202	240	28	11.7	232	27	9.9
工業		513	432	28	6.5	458	54	10.6
商業		265	292	26	8.9	281	23	7.9
家庭		48	73	9	12.3	67	1	1.8
音楽		20	20	2	10.0	18	1	5.9
総合		840	871	53	6.1	846	58	6.6
学校 出 願	普通・理数	460	552	28	5.1	545	50	7.9
	普通・体育	230	394	43	10.9	355	52	13.5
	普通・美術	153	129	7	5.4	142	3	2.1
合計		7,014	7,732	495	6.4	7,664	559	7.0

*普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、甲南高等学校、八日市南高等学校の4校8科であった。定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）草津東高等学校（体育科）栗東高等学校（美術科）の3校3科であった。

なお、作文については実施校はなかった。

Ⅱ 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し17人（昨年25人）が入学許可予定者となり、0.43倍（昨年度0.63倍）の倍率となった。二次選抜では、1人が入学許可予定者となり、合計18人（昨年度26人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、133人の出願者（昨年度128人）に対して、133人（昨年度128人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、31人（昨年度27人）が入学許可予定者となり、合計164人（昨年度155人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計		
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A	
平成 30 年度	単位制	転 編 入	40	17	17	0.43	0	1	1	18	-22
		通 信 制	320	133	133	0.42	0	31	31	164	-156
平成 29 年度	単位制	転 編 入	40	27	25	0.63	0	1	1	26	-14
		通 信 制	320	128	128	0.40	0	27	27	155	-165

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は国語58.6点、数学40.6点、社会46.2点、理科41.7点、英語42.9点であった。

平成30年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「二つの資料をきちんと把握してキーワードをおさえながら答える点で思考力・表現力を問う問題であった。」「文章は読みやすく、設問数も妥当であった。」「全体的に説明させる記述問題が多いが、抜き出しを用いて説明させつつも簡単すぎず、国語力を問うことができた。」「問題に対する工夫は理解できるが、純粋に読解を問う問題がもう少しあってもよかった。」などの意見があった。

各設問については、「さまざまな種類の文章から出題されていた。」「言葉のきまり（文法）や、日本の伝統文化に触れさせる設問がもう少しあってもよかった。」「説明的文章だけでなく、小説や詩などの心情を読み取る問題の出題があってもよかった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体をとおして、漢字や語句の使い方に関する問題や、文章を読み、文脈の中における語句の意味を的確にとらえる問題などは正答率が高く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていると考えられる。一方、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする問題や、文章を適切に引用し、自分が感じたことや考えたことをまとめる問題は正答率が低かった。様々な種類の文章に触れ、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをまとめる力や、目的に応じて必要な情報を読み取る力を身に付けることが求められる。国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成するという観点から、生徒が身に付けた基礎的・基本的な知識および技能を活用できる学習活動を重視するとともに、論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い、言語感覚を豊かにするという観点から、様々な種類の文章を読み、自分の考えや意見をまとめ、交流をとおしてさらに自分の考えを深めるなどの言語活動の充実が望まれる。

□は、ミツバチの行動について書かれた文章と、関連する資料を素材とし、二つの文章を比較しながら、文脈の中における語句の意味や要旨を的確にとらえる力や、必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめる力をみる問題であった。文脈の中における語句の意味を的確にとらえる問題については正答率が高かったが、必要な情報を読み取り、考えをまとめる問題については正答率が低かった。複数の文章から適切な情報を得て、まとめる力の育成が求められる。

□は、読む力を伸ばすことについて考察した文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確にとらえる力、文章の構成や論理の展開の仕方をとらえ内容を理解する力、文章を読んで自分の感じたことや考えたことを適切に表現する力をみる問題であった。文章の構成や論理の展開の仕方をとらえ内容を理解する力や、文章を読んで自分が感じたり考えたりしたことを、条件に応じて適切に表現する力をみる問題については、正答率が低かった。文脈における語句の意味を正確に理解し、表現する力や、適切に自分の考えをまとめる力の育成が求められる。

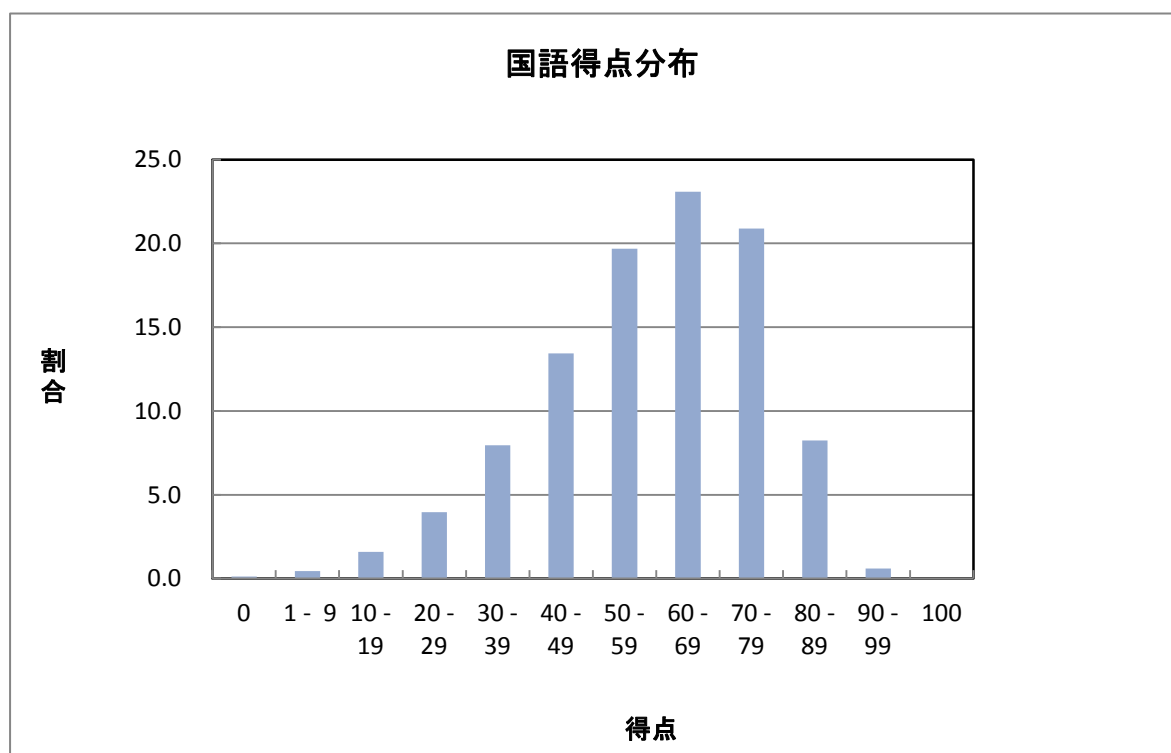
□は、漢字の問題については正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いている。一方、古典の作品の種類を適切に選ぶ問題については、正答率は低かった。古典の様々な種類の作品に触れる学習活動が求められる。また、漢字の行書と楷書の特徴を比較する問題の正答率が低かった。漢字の行書について理解を深める学習活動が求められる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	84.2
	2	31.9
	3	18.6
	4	66.3
	5	23.5
㊧	1	75.8
	2	35.7
	3	43.2
	4	8.8
	5	20.1

問題区分		正答率 (%)
1	①	90.8
	②	70.4
	③	71.6
	④	88.9
	⑤	85.1
2	①	83.5
	②	96.6
	③	67.0
	④	94.5
	⑤	56.7
3		46.3
4	①	91.3
	②	56.4

年 度	平均点	標準偏差
平 30(100点満点)	58.6	17.1



平成30年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な計算力や図形に関する知識を問う問題から、応用的な力を問う問題まで出題されていた。」「複数の領域にまたがって考察・処理・表現することができるかを問う内容となっている。」「九九や扉などの、日常的な題材や数学のおもしろさを味わえる題材を使って、中学校で学習する分野がバランスよく出題されている。」などの意見があった。

各設問については、「**1**は各領域の基礎的・基本的事項の理解を見る問題である。」「**2**は、小学校の九九に関するさまざまな事象を、文字を使って証明する力、表現力を問う問題である。」「**3**は、実際の学校生活における身近な教室の扉を題材とし、日常生活に密着した問題であった。扉の動きと透明なガラスを通して向こう側が見えている四角形の面積の関係を数式で表すことが難しかった。」「**4**は、身近な折り紙を題材にした初等幾何に関する出題であるが、数種類の知識を組み合わせることが必要で、作図、証明については特に高度な出題となった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。正答率が低い「扉の移動距離と透明なガラスを通して向こう側が見えている四角形の面積についての問題」や「折り紙を折ってできた図形をもとに、二つの三角形が合同となることを証明する問題」については、2つの数量関係や図形の性質について、見通しを持って考察し、処理する力や証明する力が十分身につけておらず、今後は、課題を解決する学習において論理的に考察したり、数学的な表現を用いて理由を説明したりする活動を取り入れながら、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

1は、数と式の計算、2乗に比例する関数の問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。与えられた条件から、確率を求める問題では、正答率が低かった。問題文から与えられた条件を正確に読み取って、起こり得る場合を数学的に表現し処理する力の育成が望まれる。

2は、九九の表をもとに、九九の規則性に基づいてできる図形の性質を考察する力、九九の数の並び方について、数量の関係や法則を考察し表現する力をみる内容であった。与えられた情報から、数量の関係や法則を考察し表現する力を問う問題では、正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取って、数学的な表現を用いて説明する力の育成が望まれる。

3は、扉の移動距離と透明なガラスを通して向こう側が見えている四角形の面積について関数関係を見だし、数学的に処理する力をみる内容であった。与えられた情報から、扉の移動距離と透明なガラスを通して向こう側が見えている四角形の面積が、どのように変化するのかを式を用いて説明する問題では正答率が低かった。問題文から与えられた情報を正確に読み取って、数理的に考察し表現する力の育成が望まれる。

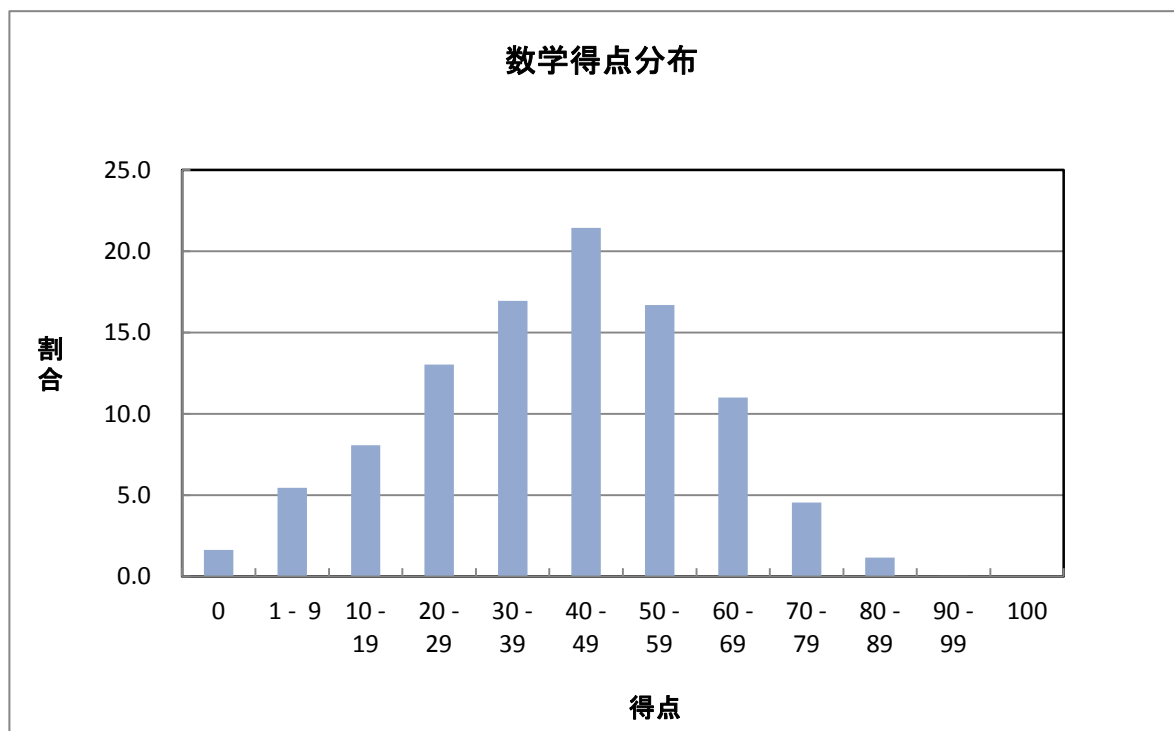
4は、折り紙を折ってできた図形をもとに、数学的に処理する力や見通しをもって考察する力をみる内容であった。与えられた情報を正確に読み取って、三角形の外接円や円周角の定理の逆に着目し、二つの三角形が合同となる理由について証明する問題の正答率が低かった。図形をよく観察して、見通しをもって考察し表現する力の育成が望まれる。

数 学

問 題 区 分		正 答 率 (%)	
①	(1)	67.5	
	(2)	89.1	
	(3)	83.8	
	(4)	74.0	
	(5)	62.6	
	(6)	①	71.9
		②	59.3
	(7)	62.7	
	(8)	45.2	
	(9)	28.0	
②	(1)	14.3	
	(2)	17.8	
	(3)	45.9	
	(4)	6.8	

問 題 区 分		正 答 率 (%)
③	(1)	54.4
	(2)	2.0
	(3)	12.1
④	(1)	36.0
	(2)	3.3
	(3)	0.0

年 度	平均点	標準偏差
平 30(100点満点)	40.6	19.1



平成30年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の各分野がバランスよく出題され、図やグラフなどの資料を正確に読み取らせ、思考力・表現力を問うものも多く、評価できる。問題数も多からず少なからず適切であった。」「知識、思考、技能の各観点を問う設問がバランスよく出題されているように思う。また、天ぷらうどん、きまりや法の歴史の変遷、市の課題など身近で親しみやすい題材で構成された出題となった。」などの意見があった。

設問については、「資料読み込みの力を必要とする問題が多かった。」「古代から近代にわたり出題されていて、偏りなく受検生の学習の成果を問うことができた。」「知識を問う問題が増えたので、受検生の学力がより正確に把握できるようになった。」「論述に関しては客観性を確保するために、もう少し字数制限や内容を絞られるように誘導したほうが良かった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。図表やグラフから必要な情報を正確に読み取り、蓄積した知識から判断し、表現する力の育成が必要である。今後、社会科の学習において、基礎的・基本的な知識や技能を身につけたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育成する指導が望まれる。

①は、天ぷらうどんを題材に、グローバル化の視点へと広げる出題とした。特徴的な地形や漁業、農業について、基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、世界が結びついていることについて考察し判断する力や、適切に表現する力をみる問題であった。基本的な知識をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。しかし、様々な資料から地理的事象をとらえ、論理的に考察し表現する問題の正答率が低く、資料から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、「きまりや法と社会の動き」というテーマを通じて、古代から近代を概観する題材となっている。基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、多面的・多角的に考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。略地図から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせて、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

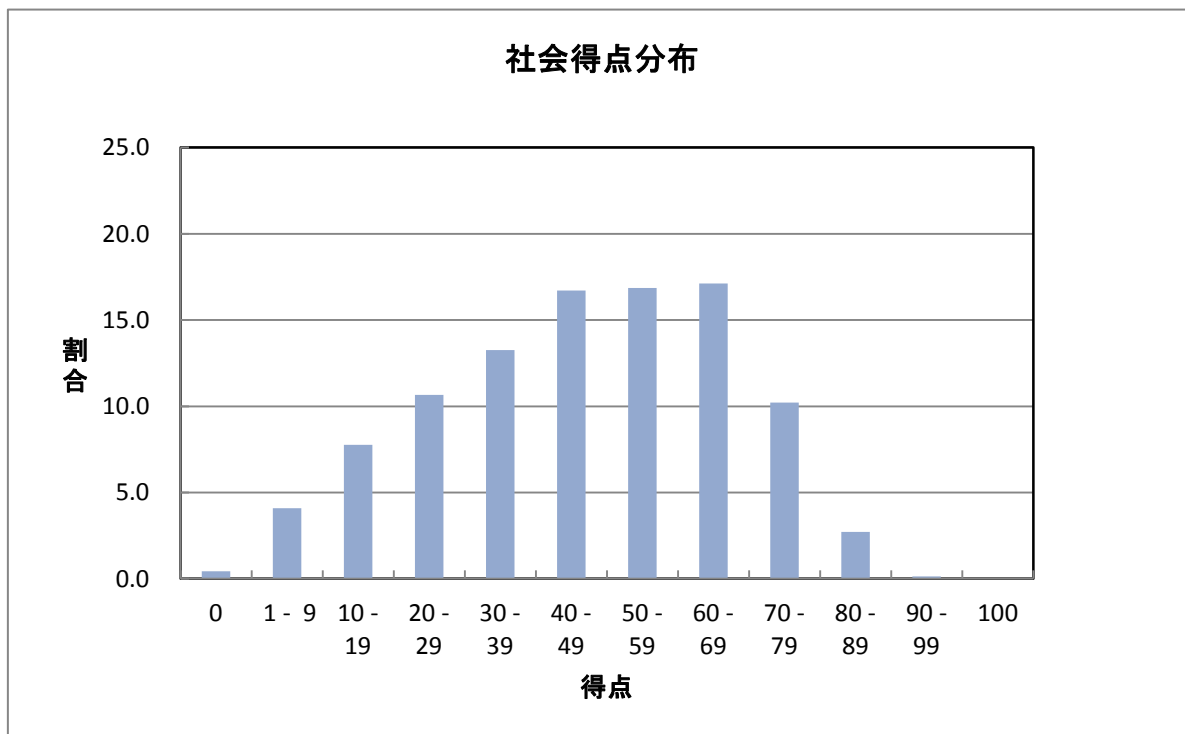
③は、国や地方の政治の仕組みについての理解をみるとともに、身近な市の特徴や課題について、探究する場面を設定している。題材について、基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、探究課題について論理的に判断し、適切に表現する力をみる問題であった。日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育てていく必要がある。

社 会

問題区分		正 答 率 (%)		
①	1	(1)	76.5	
		(2)	32.7	
	2	(1)	56.8	
		(2)	65.8	
	3	(1)	11.5	
		(2)	69.2	
		(3)	4.1	
	②	1	(1)	39.3
			(2)	54.9
(3)			56.7	
2		(1)	60.1	
		(2)	6.2	
		(3)	63.5	

問題区分		正 答 率 (%)		
②	3	6.4		
	4	29.2		
③	1	(1)	35.7	
		(2)	13.8	
		(3)	4.3	
		(4)	10.7	
	2	(1)	78.1	
		(2)	①	43.0
			②	27.0

年 度	平均点	標準偏差
平 30(100点満点)	46.2	20.5



平成30年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「複数の知識、あるいは複数の実験結果を関連付けなければ解答できない問いで、考察する力や課題を解決する力をみることができた。」「知識・理解を問う問題から観察、実験を通して考察させる問題まで、難易度に幅のある問題であった。」「必要な情報を集め、知識を活かしながら答えを導く必要があり、読解力、分析力、計算力など理科のあらゆる力を問うことができた。」などの意見があった。

設問については、「実験、観察を通して、そこから何がわかるのかを論理的に考察していく点が評価できる。」「再現しやすい実験内容であり、身近な事象とも関連させながら問題に取り組めたと考える。」「主体的な学びを意識した設問となっている。」などの意見があった。

3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な事項を問う問題については正答率が高く、知識・理解の定着は進んでいると考えられる。一方、実験や観察の結果を分析し、その事象について科学的に考察することを求める問題で正答率が低かった。また、生徒の探究的な学習を題材とし、その中で思考の過程を示しながら考察させる問題についても正答率が低かった。身のまわりの事物・現象に興味をもち、疑問や目的意識をもって主体的に実験や観察を行うことが大切である。また、基本的な事項や概念の理解を深め、なぜそのような現象が起こるのかを科学的に探究する態度を育成する必要がある。現象の要点や自分の考察を簡潔に表現できるよう、言語活動についてもより一層充実を図る必要がある。

①では、流水のはたらきや、深成岩の組織についての知識・理解を問う問題については、正答率が高かった。一方、火成岩と堆積岩の特徴について考察する問題や、深成岩と火山岩のでき方について実験の結果をもとに考察する問題については正答率が低かった。様々な岩石が形成される過程と、その結果生じる特徴について科学的に考察し、理解を深めることが望まれる。

②では、二酸化炭素の性質や、実験器具の操作についての知識・理解を問う問題については、正答率が高かった。一方、塩酸と反応して二酸化炭素が発生する2つの実験の結果から、化学変化における質量変化の規則性について、化学反応式や粒子のモデルと関連付けて考察する問題については、正答率が低かった。実験における質量の変化を分析して解釈することを通して、化学反応においてどのような事象が起こるのか、その結果としてどのような規則性が生まれるのかを科学的に考察する力を育成することが望まれる。

③では、イチゴの無性生殖や実験で用いる試薬についての知識・理解を問う問題については、正答率が高かった。一方、植物が光合成と呼吸を行っているときの二酸化炭素の出入りについて、実験の結果から考察する問題については、正答率が低かった。実験の結果からわかることは何かを科学的に考察し、気体の出入りについては逆の関係にある呼吸と光合成を、実験結果と関連付けてとらえる力を身に付ける必要がある。

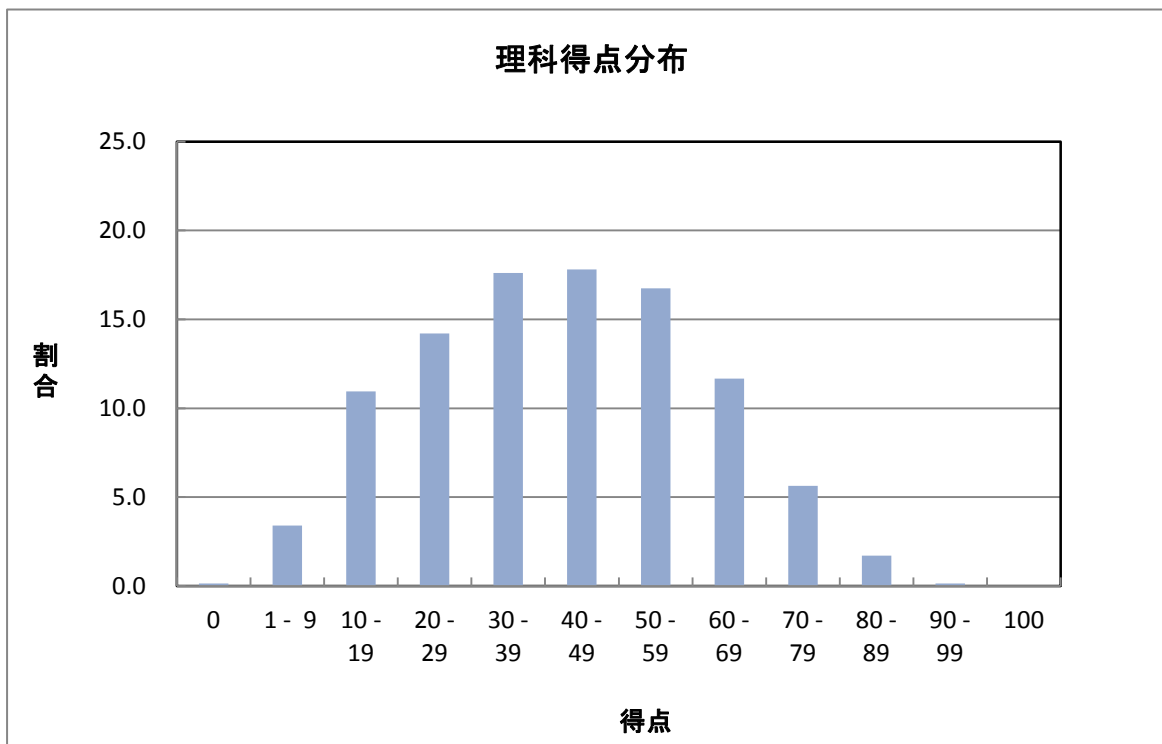
④では、電流が磁界から受ける力や、物体の運動の速さについての知識・理解を問う問題については、正答率が高かった。一方、モーターを用いた実験装置で、消費電力が仕事に変換される効率について考察する問題については、正答率が低かった。仕事とエネルギーの関係や、電気エネルギーが力学的エネルギーに変換される事象について考察することを通して、エネルギーとは何かを理解し、現象をエネルギーに基づいてとらえる科学的な見方、考え方を身に付けることが望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)
①	1	67.8
	2	45.2
	3	61.3
	4	21.9
	5	3.8
②	1	57.5
	2	84.8
	3	13.8
	4	19.1
	5	2.6

問題区分		正答率 (%)	
③	1	68.2	
	2	55.8	
	3	26.7	
	4	39.6	
	5	(1)	55.5
(2)		17.4	
④	1	24.4	
	2	71.7	
	3	61.7	
	4	運動	23.3
		位置	74.3
		力学	19.1
	5	8.4	

年 度	平均点	標準偏差
平30(100点満点)	41.7	19.1



平成30年度 英語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生にとって身近な内容で、様々な場面での英語の使用が想定された題材になっていた。自己を発信する力を重視していて、英語による実践的なコミュニケーション能力を問うことができた。」「英語学習における留意点や、ボランティア活動への参加の意義、3R活動を通しての環境問題への取組などについて、本文を通じて受検生に考えさせることができた。」などの意見があった。

設問については、「社会的な課題への意識付けを意図しつつ、基礎的な問いから自己表現にいたるまで、幅広く生徒の英語の力をみるよう工夫されている。」「中学生が日ごろの授業で取組んできた内容が反映される問いになっている。」「ちらしなど様々な情報を活用し、実際に用いられる言語表現に触れさせようとする意図がわかる問いであった。」などの意見があった。

リスニングについては、「実際の英語使用場面を想定した問題であった。」「基本的な内容から高度なものまで、幅広く出題された。」「情報量、分量がやや多かったと思われる。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の意向を理解する力や、身近な話題についての英文を読んで大まかな内容や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。正答率が低いのは、場面や状況に応じて考えや意見を適切に表現する問題であった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動をより一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題や、初歩的な短い会話の内容を聞き取る問題、身近な話題の会話を聞いて情報や話し手の意向を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、重要な箇所をしっかりと聞き取り、その内容を英語で適切に表現する問題では正答率が低かった。日ごろから、まとまりのある英語を聞き、その内容についてペアで話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、「ボランティア活動」についての生徒の発表を素材にして、発表者の伝えたいことなどを正確に読み取る力や、発表の内容に対して自分の考えを適切に表現する力などをみる問題であった。話し手の大まかな意向を理解する問題や、会話の流れに即して基本的な語彙を用いて適切に表現する問題は、比較的高い正答率であったが、会話の流れを把握し、適切な表現を答える問題では正答率が低かった。日ごろから、読んだり聞いたりした内容に対して、自分の感想や意見などを述べ合い、適切に表現する活動をより計画的、系統的に行うことが望まれる。

③は、海外に留学中の生徒の、環境保護の取組についての会話を素材にして、会話の大まかな流れや大切な部分を読み取る力、自分の考えを適切に表現する力などをみる問題であった。会話の流れに即して適切な表現を選択する問題では正答率が高かったが、会話の内容から大切な部分をとらえて的確に読み取り英文で表現する問題や、自分の意見を表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について問答したり意見を述べ合ったり、感想、賛否やその理由を示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)	
①	その1	1	98.1
		2	86.4
	その2	1	56.6
		2	53.4
	その3	1	82.9
		2	38.5
		3	66.7
	その4	1	22.3
		2	17.6
	②	1	
2		36.7	
3		53.2	
4		(1)	9.6
		(2)	47.2
		(3)	73.8
5		29.4	
6		29.8	

問題区分		正答率 (%)	
③	1	(1)	50.8
		(2)	10.4
		(3)	14.1
	2		51.9
	3		33.3
	4		24.4
	5		46.8
6		51.8	
7		9.7	

年 度	平均点	標準偏差
平 30(100点満点)	42.9	23.3

